深沢まちづくりニュース

第37号
令和元年7月発行

発　行：鎌倉市深沢地域整備課

Topics

- 鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会の中間答申について
  - まちづくりのコンセプトの具体化
  - 修正土地利用計画（案）の再点検
- 事業の進捗報告及び事業予定について

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会の中間答申について

平成30年（2018年）10月から検討を進めている鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会※より、令和元年（2019年）７月１日に中間答申がありました。

この中間答申は、第１回から第３回までの委員会における議論を基に、「まちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討」、「土地利用計画の再点検」、並びに「防災拠点として必要な機能を発揮するための考え方や対応方策」について、最終答申に至る中間的な内容をとりまとめたものです。

※　開催状況は、鎌倉市hpを参照「http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyoten/jitugenkakentouiinkai.html」

まちづくりのコンセプトの具体化

深沢地域が目指す「ウェルネス」のまちづくりの具体的な方向性として、「まちの将来像３つの視点」を示しました。旧来からの「鎌倉らしさ」、鎌倉市の第三の都市拠点としての「深沢らしさ」を活かすとともに、新しい「鎌倉らしさ」につながる社会の「新たな潮流」を受け止め、鎌倉市ならでは、深沢地域ならではの特色を生かした、オンリーワンのまちづくりを目指していきます。

また、「まちの将来像３つの視点」を実現し、人々の生活の質（クオリティ・オブ・ライフ）を向上させるため、『歩く』ことに着目し、ウォーカブルなまちを目指す考え方を中心に据えて、まちづくりのコンセプトの考え方を整理しました。

平成16年（2004年）　深沢地域の新しいまちづくり基本計画
まちづくりのテーマ「ウェルネス」

平成28年（2016年）　深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）
「７つの基本要素」
①ヘルシー　②アクティブ　③メッセージ
④セーフ　⑤ナチュラル　⑥コミュニティ　⑦ユニバーサルデザイン

地域の魅力と新たな潮流を検討・考慮
鎌倉らしさ
深沢らしさ
新たな潮流

令和元年（2019年）7月1日（中間答申）
「まちの将来像３つの視点」
こころとからだの健康を育むまち
イノベーションを生み出すまち
あらゆる人と環境にやさしいまち

防災拠点としての深沢地区

事業区域において想定される災害に対する評価をするとともに、事業区域が鎌倉市の防災拠点として必要な機能を発揮するための考え方や対応方策について4名の防災の専門家による検討がされ、以下を確認しました。

- ハード、ソフト両面からの対応をバランスよく講ずることにより、深沢地域整備事業用地は、防災拠点を含む新しいまちづくりの地として充分な安全性とポテンシャルを持つことができる。

- 高い受援力を有する本庁舎の整備や民間街区との連携等により、更なる防災力の強化が必要である。
- 防災力を高める取組をさらに工夫することで、平時におけるまちの魅力の向上にも寄与できる。

修正土地利用計画（案）の再点検

平成28年（2016年）10月策定の修正土地利用計画（案）の再点検にあたっては、コンセプトの具体化でとりまとめた「まちの将来像３つの視点」を実現するために必要な着眼点を整理し、現行の修正土地利用計画（案）における課題を整理した上で検討例としてとりまとめました。

視点①　こころとからだの健康を育むまち

（着眼点）地区内の回遊性の確保　／　歩行空間の充実

（課題）　・ウォーカブルの実現が必要

視点②　イノベーションを生み出すまち

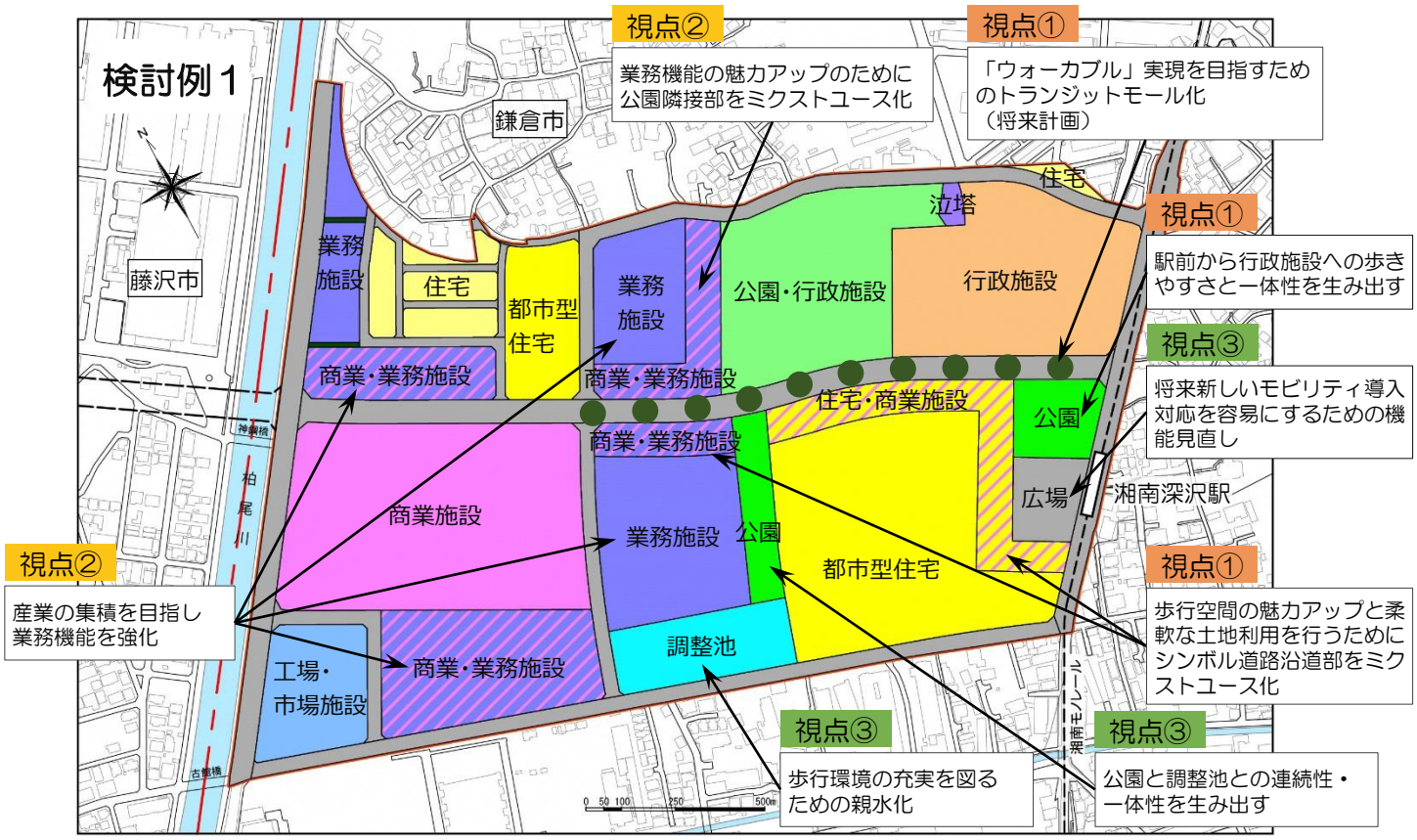
（着眼点）業務機能の強化　／　業務施設街区の魅力向上

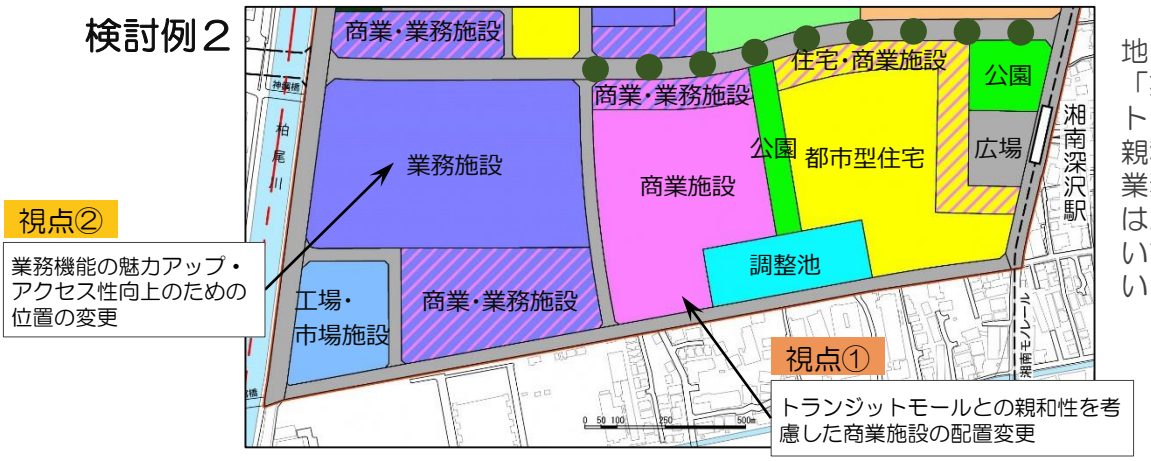
（課題）
- 産業の集積を図るためには、さらなる業務機能の充実が必要
- 業務街区と隣接する施設等との連続性が必要

視点③　あらゆる人と環境にやさしいまち

（着眼点）持続可能な土地利用の実現　／　憩いの空間の充実

（課題）
- 従来型の都市設計により柔軟な土地利用が阻害されていることの解消が必要
- 人が憩いを感じることができる空間の充実が必要





地区南西「商業施設」と「業務施設」を入れ替えトランジットモールとの親和性を高めるとともに業務機能の更なる強化をはかる【検討例２】についても中間答申を受けています。

事業の進捗報告及び事業予定について

平成30年度（2018年度）の事業進捗状況

●平成30年（2018年）12月に神奈川県、鎌倉市及び藤沢市は、広域的なまちづくりの実現に向けて、鎌倉市深沢地区及び藤沢市村岡地区との両地区一体のまちづくりと新駅の実現に向けた合意を整え、「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設立しました。

●平成31年（2019年）1月に村岡新駅（仮称）設置協議会からＪＲ東日本に対し、村岡新駅（仮称）設置の要望を行いＪＲ東日本より前向きな回答を得ました。

●平成30年度（2018年度）から、専門家により構成する委員会を設置し、深沢地区のまちづくりテーマである「ウェルネス」のコンセプトの掘下げと、これを受けた土地利用計画の再点検、まちづくりの推進体制等について検討を始めました。

●深沢地区まちづくり検討部会全体会を２回開催しました。

●深沢中央商店会との意見交換会を行いました。

〇深沢地区まちづくり検討部会全体会

回　次	日　時	場　所	出席者	議事事項
第31回	平成30年（2018年） 12月 6日（木） 19:00～20:00 平成30年（2018年） 12月 9日（日） 10:00～11:00	鎌倉青果地方卸売市場 大会議室	31名	1　深沢地域整備事業の取り組み状況について 2　市役所本庁舎の現状について
第32回	平成31年（2019年） 1月19日（土） 10:00～11:00	鎌倉青果地方卸売市場 大会議室	16名	1　深沢地域整備事業の取り組み状況及び今後の進め方について 2　その他

〇深沢中央商店会

日　時	場　所	出席者	議事事項
平成31年（2019年） 3月 5日（火） 19:30～21:00	深沢学習センター 第１集会室	深沢中央商店会 10 名 鎌倉市 7名	1　深沢地域整備事業の状況等について 2　その他

「村岡・深沢地区のヘルスイノベーション最先端拠点形成等に係る連携・協力に関する覚書」を締結しました!!

神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業株式会社（湘南ヘルスイノベーションパーク）、湘南鎌倉総合病院の5者は村岡・深沢地区におけるヘルスイノベーション最先端拠点形成等の推進に向けて、令和元年（2019年）5月15日に覚書を締結しました。

（目的）

ヘルスイノベーションの最先端拠点形成等を推進することにより、誰もが健康かつ安全に、生き生きと誇りを持って暮らすことができる、持続可能な地域社会のリーディングエリアの構築を図るとともに、健康寿命の延伸やヘルスケア分野の産業創出を図ることについて研究を進める。

当日は、黒岩神奈川県知事、鈴木藤沢市長松尾鎌倉市長、湘南ヘルスイノベーションパークジェネラルマネージャー及び湘南鎌倉総合病院院長が覚書に調印しました。

令和元年度（2019年度）の事業予定

●藤沢市村岡地区と鎌倉市深沢地区を接続するシンボル道路や新橋の構造・幅員等を検討し、概算事業費を算定するため、藤沢市と鎌倉市で連携してシンボル道路等の概略設計を実施します。

●村岡新駅（仮称）の位置・形状等を検討し、概算事業費を算定するため、令和元年度から令和2年度（2020年度）にかけ、神奈川県、藤沢市、本市の3県市で村岡新駅（仮称）の概略設計を実施します。
なお、この概略設計の成果を踏まえ、令和2年度（2020年度）に新駅設置の見極めを行い、令和3年度（2021年度）の土地区画整理事業に係る都市計画決定を目指します。

●修正土地利用計画（案）の再点検の結果を踏まえ、土地区画整理事業に係る都市計画手続きの実施に向けた検討・調整を実施します。

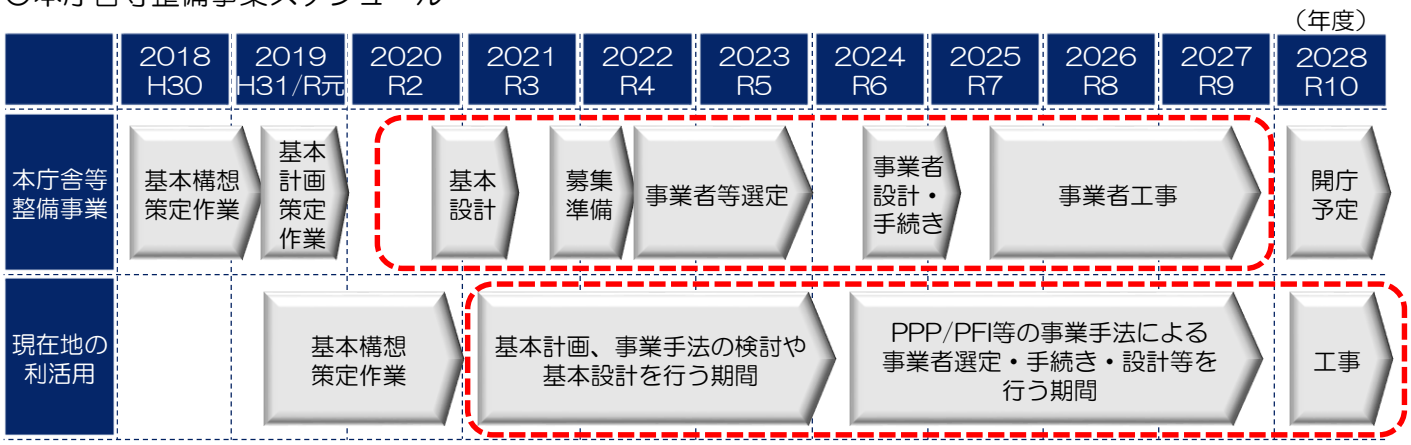
本庁舎等整備事業との連携

●新庁舎は、深沢地域整備事業用地内に建設を行い、令和7年度（2025年度・改元前は「平成37年度」と説明。）の開庁を目指して取り組んできました。一方、深沢地区の土地区画整理事業が、藤沢市村岡地区との一体的なまちづくりを進めることとなり、令和3年度（2021年度）の土地区画整理事業に係る都市計画の決定に向けて進めていくことになったこと等から、新庁舎の開庁予定を令和10年度（2028年度）に変更しました。

●新庁舎は深沢地区のまちづくりの重要な構成要素のひとつとなりますので、まちづくりの検討と庁舎整備の検討をしっかりと連携して取り組んでまいります。

○深沢地区土地区画整理事業スケジュール

○本庁舎等整備事業スケジュール



：事業手法（例：従来方式、PFI方式）等により異なるため、関係する事業の進捗に併せて、今後、検討していきます。

★お知らせ★
同内容を右記のＨＰにも掲載しております！！今後も、より良いまちづくりに向け、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

深沢地域周辺地区のまちづくり　検索

計画についての問い合わせ先：
鎌倉市 まちづくり計画部 深沢地域整備課
〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
TEL：0467-61-3760　　FAX：0467-23-8700
E-mail：kamafuka@city.kamakura.kanagawa.jp
HP：http://city.kamakura.kanagawa.jp/kyoten/fuka.html